法人合併

林　正夫
学校法人修道学園 理事長

本学園は、2015年4月に、同じ市内の学校法人鈴峯学園と合併した。周辺地域では稀な法人合併であったために先例が乏しく、種々の問題もあったが、鈴峯学園の創立関係者(役員)が本学園の役員にも就任していたり、「地域貢献」「地域への有為な人材の輩出」といった教育理念等も共通しており、両学園が密接な関係性を構築できる素地もあって、円滑に合併を進めることができた。

この法人合併は、より魅力のある教育事業の展開、教学面の融合と接続の推進、そして教育機能の向上を目指した。

具体的には、鈴峯学園の女子短大の学科を大学の学科等と統合等して、新学部・新学科を開設し(女子短大は廃止)、同学園の中高を大学の附属校とした。

大学の既設学部は人文社会系であったが、短大の保育系学科と大学の学科内の専攻とを統合して新学科を開設し、短大の家政系学科と大学の既設学科を組み合わせて新学部を設置した。大学に、これまでにはなかった異分野の学科等が開設されたことや資格・免許課程が大幅に増えたこと等が注目を浴びて、漸減傾向にあった入学志願者(総数)が8千人から1万1千人に急増し、以降同様の状況が続いていて、全学部全学科とも定員を充足している。また、規模は拡大したが、従前からの学生一人ひとりへの支援等は、より充実した活動を展開し、日経HRと日経による大学の取組ランキングでは、本大学が「就職支援に熱心に取り組んでいる大学」で、全国1位の評価を得ている。

鈴峯学園の女子高等学校・中学校は、大学の附属校とすることにして、大学への進学状況の向上と共に、高大(中)接続による教育の融和と連続性も図った。併せて、老朽化していた校舎を新校舎に建替え、生徒募集力を高めるために女子校から男女共学校へ

ずいそう *Occasional thoughts*

の転換と学校名の変更を行い、さらに外部から校長の登用等々も行って、新しい学校づくりを教職員が一体となって進めた。その効果は顕著に表れ、一時期大幅に定員割れしていた状態が、中学校はほぼ定員を充足し、高等学校は定員超過の状態になり、いわゆるV字回復を遂げて、来年度にはもう1棟新しい校舎の建設を予定している。

こう述べれば、随分とスムースに事が運ばれたようであるが、ところが、そこには、両学園の風土・文化の「違い」という大きな障壁があり、殊に財務や人事では早々に齟齬をきたす事態が頻発した。同じ言葉なのに意味合いが全く違っていたり、自分達の中では当然のこととしていた事柄が相手にはとても奇異なことに捉えられたりした。何度か議論を重ねていくうちに、お互いの「違い」を認識し、その「違い」を前提としてどうしたらより良いものになるのか、お互いの風土になじむものになるのか、そういう視点で事柄の処理や制度設計を行っていくことができるようになった。その道のりは、それこそ、単純に「良し」「悪し」の評価ではなく、その背景や考え方、そこに至った経緯等も認識して、その上で処置していく、なかなか根気のいる道程だったが、お互い何かを創り上げていくという意識が生まれて充実した議論ができた。また、このことから、お互いが刺激を受け、自分達の組織や業務等の点検と確認も行うこととなったので、結果的には良い状態を生じさせた。法人合併ということを通じて、まるで〈異文化の交流〉とでも言えるような、とても貴重な時を育むことができた。

本学園にとって、鈴峯学園との合併は、このように良好な状態をもたらしてくれたが、今後、ますます少子化は進み、経営環境が厳しさを増していく中で、本学園は、これからも地域社会の発展に貢献していく、特色ある総合的な学校法人として歩んでいく所存である。